今年で 20 周年を迎える JCV 主催の Japan Festival 小史

バザー(FETE)復活から、その歴史の一歩が始まった。
1993 年を最後に JICA（国際協力機構）からの助成金が打ち切られたのきっかけに、JCV の運営資金に少しでも役立たせようと、1994 年 6 月 13 日、当時クラブハウスとして借りていたカンターベリーの教会でバザーを復活させた。そして、もう一つの大きな理由として、会員相互の親睦を図る手段と考えての新生 JCV としては初めての大きな仕事でもあった。バザーを開催するのに先立ち、今ほどではないがやはり準備が一番大変だった。手作りのポスター張りの依頼、販売品の提供依頼と回収、ラッフルチケットの販売、そして、バザー前日に行った販売品の値段付けや料理及び会場の準備など、もう少し会員のお手伝いがあったら、一人一人の負担が少なく済み、バザーの準備と運営が楽にできるのではと思った。それでも、初めて会う会員の方やジャパニーズレストランの人たちが多かったにもかかわらず、どなたも大変協力的だったことに感謝している。日本人の来場者には日本の雑誌やビデオテープなどに人気があり、その他の人には日本の食器や小物などが喜ばれた。運営資金集めに復活させたバザーだったが、日本からの留学生や一般の人たちも沢山やってきてくれて JCV が有名無実のものではなく、きちんと活動しているグループと言うことが証明されて開催して本当に良かったと思ったし、これを機会に一人でも多くの会員が JCV の行事に参加してくれたら良いなと思った。このバザーをクィーンズバースデイに行ったことから、その後は毎年クィーンズバースデイに開催するようになって行った。

6月 13日(月)
今日は待ちに待ったＪＣＶバザーの日。昨年8月22日に新たなCommitteeでスタートして以来、たぶん一番大きなイベントだと思います。(むろん重要度から言えば2月の総会の方が重要なのですが...。)
当初なかなか出店も集まらずどうなることやらと心配していましたが、当日間近になってある程度の出店も集まり、又ＪＣＶで売る為の品物も会員の方々の御協力でたくさん集まりありがとうございました。
やっぱりバザーはいいですね、何となくうきうきした気分で...と言っても裏方は忙しくてそんな気分じゃないけど。「ＪＣＶもなかなかやってんじゃん。」なんて声が聞こえたらしめたもの――どうです会員になりませんか、――と言う訳でこの日は3人の方が会員になられました。2週間前にクラブハウスを訪れたオーストラリア人のＦＡＲＲＥＬＬＹさん親娘も大活躍して下さいました。又今回出店をしてくださった方、又いろいろと手伝ってくださった方にはこの紙面をもってお礼申し上げます。
この雰囲気というか勢いで7月の総会へ向けて突っ走ろうなんて思っている今日この頃であります。

菅野 広志

当時の出店とプログラムの様子

1994 年は私自身にとっても節目の年でもあった。待望のとんかつの店を始める前年にあたり、ウォーミングアップの意味で、カツとコロッケを 30 個ずつ作って行き、当日、販売したところ、なかなかの好評で完売となった。ハッピーだったせいか売上金全てを JCV に寄付。元大阪レストランのオーナーだった伊藤修氏はスシ、焼きそば、チャーハンの店を出してバザーに協力してくれた。当時は今と違い食べ物の出店許可は特に要らず、衛生局の講習会もなかったので、今、思うと全く信じられない時代であった。その後、ある他のフェイトにおいて食中毒が起きたことから、衛生局の管理が厳しくなって行った。しかしながら、食べ物を扱うのには注意が必要だし、お客が安心して買って食べられるようにしなくてはならないので衛生管理を厳しくするのは当然のことでもあった。回を重ねるにつれて、うどんの販売や綿菓子とヨーヨーなどの出店の数も増え、演技の方も最初は尺八とアコーデオン演奏と空手ぐらいだったのが、毎年少しずつ色々な催しものが加わりと内容が単なるバザーからフェイトに変わって行ったのである。特に坂本先生率いる和太鼓が加わってからはプログラムの内容が増え、故ブライス町子さんのご努力で 2000 年から、その名も Japan Festivalに変えて、会場をクレイトンのタウンホールに移すことになった。さらに2002年からはボックスヒルに移り、2004 年には元市会議員をされた Bev Hill 氏のご好意により隣の TAFE も借りられるようになり、益々会場の規模が拡大して行ったのだった。2006 年は日豪交流 30 年にあたり、領事館の公認行事にもなって、初めて前夜祭も開催し、それまでと違ったフェスティバルとなった。このころから開催日も少し気温の暖かめな5月の第3日曜日に変わって行くのだった。

ＪＣＶクィーンズ・バースデイ・バザーの風景

ＪＣＶバザー

↑ テキヤのお兄さんも板に付いて ↓

６月８日は毎年恒例ＪＣＶバザーが、御陰様で天候も良く無事終了する事が出来、大変嬉しく思っております。これも一重に皆様方の御協力があっての事だと深く感謝致します。

市の衛生局規制が厳しく、物足りない味の出店になったのはとても残念でしたが、思ったより順調に売れ、心配していた物事も早目に進行し、当日はスムーズに流れました。

私達バザー実行委員三人は不慣れで心配しておりましたが、心労を取り除くには何回でも話し合い、確認を取り合い、お互いの交流を持つ事がもっと必要だという事を再確認致しました。

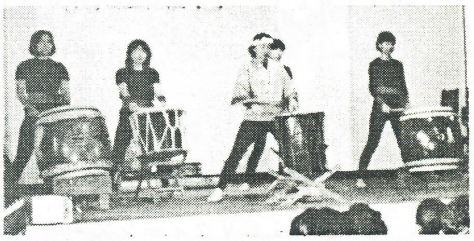
バザーの資料を作成し、計画をしっかり立て、出店募集、広告等の準備を早目にし、バザー会場エリアの衛生局からの許可を早目にもらう事。それから、出店者、エンターテイメント出演者への最終確認をしっかりとすべきだったと、数々の反省点が出て来ますが…何はともあれ大成功だったと思っております。最後となりましたが、大切な電子ピアノを気持ち良くお貸し下さった内藤会員どうもありがとうございました。吉澤事務局長には前々日よりお手伝い願い色々な物の搬入、そして搬出までお願いし申し訳なく思っております。ありがとうございました。

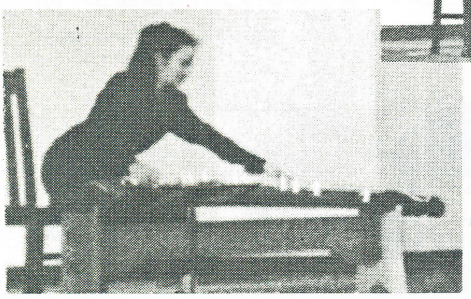
このバザーに御協力して下さった皆様、御疲れ様でした。皆様の御協力でＪＣＶバザーは大成功だったと思います。本当にありがとうございました。

バザー実行委員：海老原順子・斉藤由利子・斉藤幸子

各種エンターテイメント

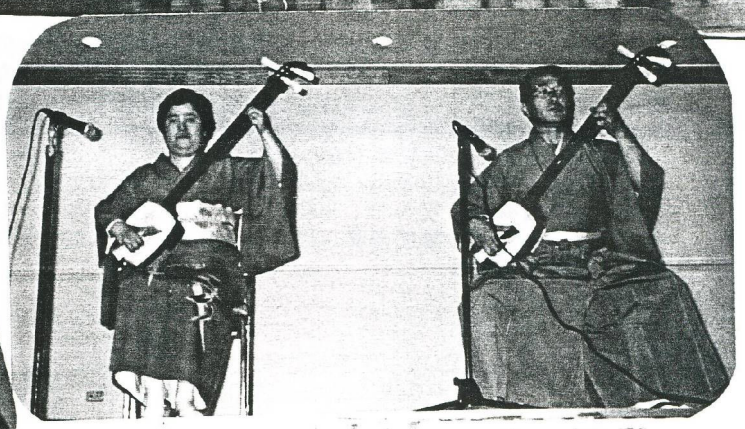
和太鼓・尺八・琴・アコーディオン・声楽の他、空手のデモンストレーションもあり、バザーを盛り上げて下さいました。



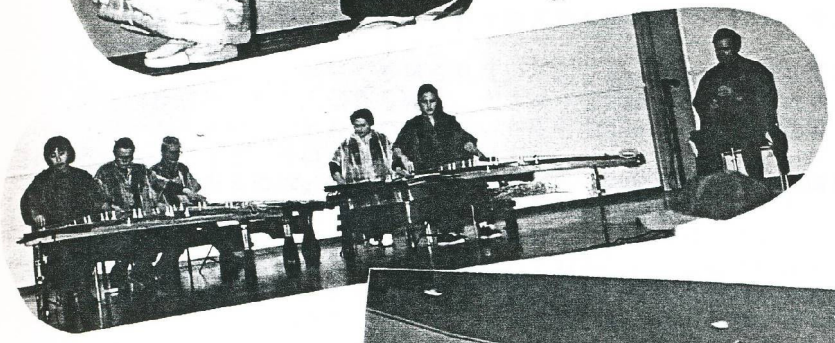


ちびっ子空手家
(極真空手門下生)
の演技

花嫁さんの着付け実演



飛び入りの津軽三味線



お琴の演奏
尺八はアンドリューさん

こちらも、ちびっ子太鼓チーム

迫力満点、フェスティバルの最後を飾ったのは
坂本さん率いる和太鼓

それでは、私が実行委員長を務めていた時の経験を思い出しながら、その後のハイライトを中心に書いてみたいと思う。
翌 2007 年、今は当たり前になっているボランティア説明会を初めて行うことにした。たったの 3、4 時間で当日の仕事の内容を十分理解してはもらえないと思うが、日本人学校でプロジェクターを借りメインスポンサー募集に制作したプロモーションビデオを見てもらったり、実際に会場の下見をするだけでもボランティアの意識付けにはなったと思う。開催日当日初めてお互いの顔を合わせるよりも、色々なことにおいてボランティア活動に当たってもらいやすいのではと考えて説明会を行ったと言うのが一番の目的だった。
JF2007 終了後、将来、誰が実行委員になっても準備がやりやすいように JF 開催に向けての準備内容など、特にポスターやパンフレットなどの印刷物の日程表も含むマニュアルを初めて作成。
それから、これまで用意していたボランティア用の T シャツに代わって JCV STAFF と背中にプリントをした安全ベストを作ることにした。最大の理由として、寒い時期の開催なので T シャツの上に暖かいものを着るとせっかくの T シャツが見えなくなってしまい、ボランティアなのか来場者なのか区別がつかなくなってしまうし、サイズも S、M、L などを用意しなくてはならないのが大変なので安全ベストは我ながら良いアイデアだったと思う。

初めて行ったボランティア説明会の様子、今と違って参加者は半分以下の実行委員を含めても 50 人程度だった。

日本人会主催の夏まつりにおいても我々のアイデアを採用して、ボランティアは安全ベストを着用いている。

JF2010はTAFEの建物内が火事の影響で使えず(駐車場のフードコートは使えた)、Town Hallだけでの開催を余儀なくされてしまった。幸いTown Hallの増改築が済んでいたことから、出店数は何とかTAFEの会場分ぐらいをカバーできたので、少し窮屈ではあったがTown Hall責任者のロジャーさんの協力もあって何とか開催することができた年だった。

ボランティア募集や出店者募集においても色々なことがあったが、舞台プログラムについては、フェイトの時代から長年、和太鼓演奏者の坂本さんが出演者の募集からプログラムの作成、それから舞台の音響装置全般まで全てを管理してくれているのでどんなに感謝しても足らないぐらいだ。
時々、日本から出演者も誘致してくれたりして、JF を盛り上げてくれている。

過去、JF 開催で一番問題となっていたのが、フードコートの電源問題と Box Hill 市衛生局の立ち入り検査だ。これまで毎回のように出店者の電源使用オーバーのためブレーカーが飛んでしまい、TAFE 担当者に頼んでトイレや奥の作業室から急遽電源を引いてもらったこともあった。ある年、電源が一部復帰できず薄暗闇のフードコートで来場者に食べ物を買ってもらうしかなくて困ってしまったことがあった。
衛生局の指摘は何と言っても食材の保管と販売食品の保温について一番厳しく、毎年、問題となっている。温度計はもちろんのこと使い捨てのハンドタオルと手袋、そして、手洗いの水を入れた容器などをフード出店者には当然用意してもらわなければならない。そのことを事前に出店者に伝え、当日の朝、出店の代表者を集めて必需品のチェックを行った。

JF において個人的に忘れられない想い出は JF2013 だ。この年の 3 月の終わりに首と腰の骨を折ると言う大けがをしてしまったが準備を休むわけには行かず、入院中も病院で家内に PC を手伝ってもらい出店者やボランティアへのメール対応を行い、当日は首と胴にプロテクターをつけて一日中、会場を駆け回った。

私の首のサポートを見てみなさん、大変と思ってくれたが、実際は首のサポートより胴体のサポートがなければ、歩くことが不可能な状態だった。

実行委員の負担軽減に JF2017 から ラッフルチケットのオンライン化なされ、そして、今年から出店申し込みもインターネットで行うようにして準備の簡素化が進んでいる。

今年も開催まで 1 ヶ月を切り最後の追い込みで実行委員のみなさんは大変だと思う。開催の成功を祈って、この辺でペンを置くことにしたい。

毎回、たくさんのボランティアの活躍で JF は開催されている。

参考資料；JCV ニュースレター、JF Photos
元 JF 実行委員長　永嶋 実